



ロボコンと非認知能力

南帷子小学校長 堀田 誠

「がんばれ!!ロボコン」という昭和の番組がありました。ロボット学校に通っているロボット達が人間社会に派遣され、世のため人のために働きながら一人前のロボットに成長していく過程を描いています。主人公のG級ロボット・ロボコンは、常に失敗ばかりでガンツ先生に怒鳴られてばかりです。ガンツ先生から点数をつけられますが、いつも「ロボコン、0点」でした。しかし、誰にでも優しく友情に厚く思いやりがあり、時には自分が不利益を被る格好となっても級友らを助けたり、苦手な相手であっても見捨てることが出来ない性格だったりするため、誰からも愛されるロボットでした。

さて、先日、5年生で「ココロとカラダワークショップ」を行いました。その時の様子は4月21日のHPを参照ください。可児市が誇る可児市文化創造センターalaのご協力のもと、コミュニケーション能力を育むことを目的として、市内小学校でこの活動は行われています。日本人は「自分を出すこと」が苦手だとされてきました。その点、欧米の人々は表現力が豊かです。その要因として、欧米は「演劇ワークショップ」が盛んであり、小さい時から教育の場で繰り返し行われているからです。こういったワークショップを行うことで、「自分の意見を受け入れてもらった嬉しさ」「人の意見を受け入れて一つのことを創り上げた喜び」「意見がぶつかったが、お互いの終着点を見出して前に進むことができる力」を体感することができるのです。5年生の子どもたちは、笑顔、笑顔で1時間30分のワークショップを体験することができました。

表題に「非認知能力」と書きましたが、認知能力はテストの点などの数字であわされる能力です。

「非」ですからその逆です。最近、この非認知能力が注目されています。人が生きていく上では、この非認知能力が重要な力となるからです。高学年、中学生になるとどうしてもテストの点数が気になります。周りとは比べ、「自分ではできない人なのか」と落ち込んでしまいます。しかし、誰もがテストの点数には表れない良さがあります。そんな非認知能力を認め・褒め・伸ばすことで自己肯定感が高まると思います。南帷子小の学校の教育目標にある「たくましさ」は、これから力強く生きていくための力です。非認知能力をもった人は、やはりたくましさをもって生きていくことができると考えられます。

ちなみに、ロボコンは最終話で、ガンツ先生に「人間に生きる勇気を与え、ロボットが人間に奉仕することの大切さを教えてくれた」と評価され、特別にロボット学校の最高得点である500点を獲得し皆からも賞賛されました。これは、ロボコンの非認知能力が認められたからでしょう。



校庭に咲くタンポポ



4/21 ココロとカラダワークショップ
「ラメン」